

目標（11）福祉



その人らしく安心して生活できる

地域共生のまちづくりを進めます

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇地域と関係機関が一体的に支援する「重層的支援体制」が整備され、高齢、障がい、子ども・子育て、生活困窮等の様々な課題を抱える人が包括的な支援を受けています。
- ◇社会的につながりが弱い人が、地域でその人らしくいきいき活躍できるよう、社会とつながるしくみができています。
- ◇支える側・支えられる側という関係を越えて、地域の人々が丸ごとつながり、一人ひとりが生きがいを持ち、助け合う地域をつくっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

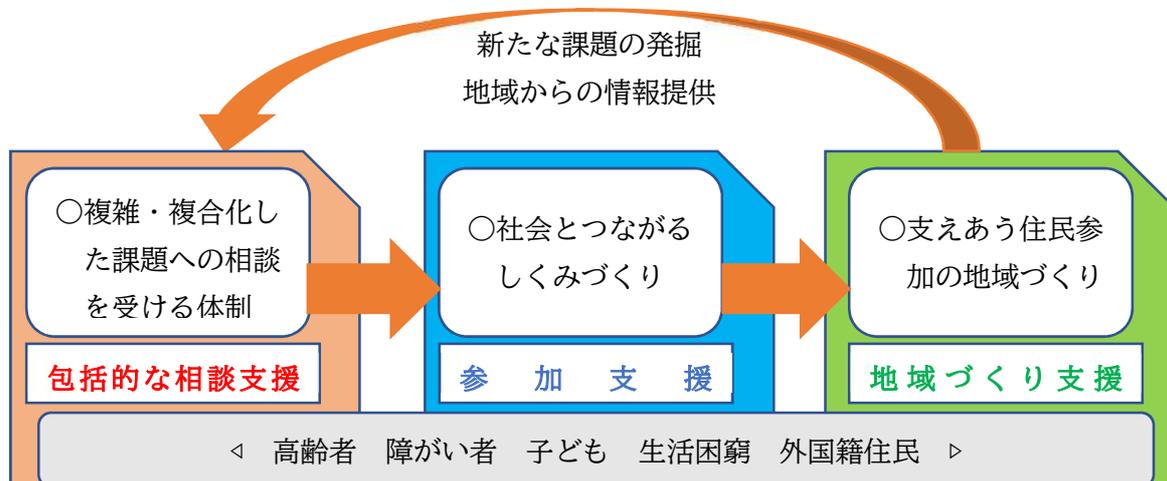
《現状》

- ◆社会構造の変化により、様々な課題が絡み合う「複雑化」、複数の分野にまたがる「複合化」した課題を抱える世帯が増えています。
- ◆地域とつながる機会の減少により、社会的に孤立している人が増えています。

《課題》

- ◇複合的な困りごとに対する包括的な支援体制の強化が求められています。
- ◇地域とのつながりが希薄化する中、地域とのつながりをつくり、自立して生活できる環境が求められています。
- ◇福祉の担い手を応援し、地域の福祉力が向上する支援が求められています。

〔目指す重層的支援体制のイメージ図〕



■包括的な相談支援体制による支援を拡充します。

- ・複合的な困りごとの相談をいきいき広場全体でサポートし、関係機関や地域支援関係者との連携を図りながら支援の強化に取り組みます。

■社会参加支援の充実を図ります。

- ・ひきこもり等の社会的に孤立している人に、自立に向けた伴走型の支援*に取り組みます。
- ・社会とのつながりづくりに向けて、障がいのある人、認知症の人、一人暮らしの高齢者等の、社会参加機会の拡充に取り組みます。
- ・農業をはじめとする異分野と福祉の連携により、支えられる側から支える側へと活躍の場を創出していきます。

■地域福祉活動を支援し、支えあう住民参加の地域づくりを進めます。

- ・災害時等、もしもの時に備えて、要支援者の実態把握を継続的に行い、地域の助け合いのための仕組み・関係づくりに取り組みます。
- ・まちづくり協議会や民生・児童委員、ボランティア等、地域の福祉に関わる支援者と連携して地域住民による見守り体制の充実を図ります。
- ・地域住民の知識や経験を活かせるボランティア活動の魅力を積極的に発信し、担い手の発掘・養成に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
いきいき広場が総合相談窓口であることを知っている人の割合	71.8%	80%
社会的孤立者への支援協力事業者数	0者	5者
困っている人へ声掛けや手助けを行ったことがある人の割合	74.2%	80%

【関連する個別計画等】

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇地域福祉計画 ◇高浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- ◇高浜市障がい福祉計画・障がい児福祉計画 ◇高浜市障がい者福祉計画 ◇高浜市自殺対策計画

一人ひとりにできること

- 日ごろからいろんな人にあいさつをしよう。
- ヘルプマークを付けていたり、車いすや杖をついている人がいたら、手伝えることがないか声をかけよう。
- 認知症サポーター養成講座に参加して、対応方法を学ぼう。
- 困窮・認知症・障がいに対する理解を深めよう。
- 障がいを自ら体験するイベントに参加して当事者意識を深めよう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- チャレンジドの就労体験活動の支援を行う。
- チャレンジドと地域の方がふれ会えるイベントを開催し、チャレンジドの理解を深める場としていく。
- 安否確認名簿を作成するなど、避難行動要支援者の実態を把握する。
- 子ども食堂として貧困層の子どもに無料で食事を提供し、自分を支えてくれる大人がいることを実感することで、地域への愛着や安心感をもつことにつなげる。 など



▲ボッチャ大会



▲ヘルプマーク

目標(12) 健康

一人ひとりと地域全体の健康づくりを応援します



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態に関心を持ち、健康づくり活動へ積極的に参加しています。
- ◇生活習慣病や認知症などの予防活動を通じて地域に出かける機会が増え、生きがいや役割を持ちながら、心身ともに健やかで自分らしく暮らしています。

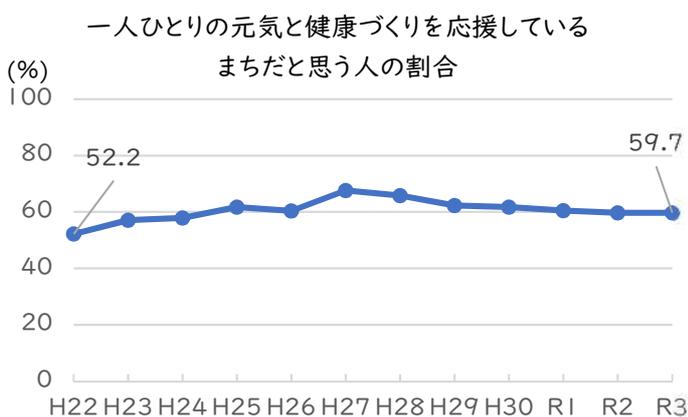
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆「一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う人の割合」は6割ですが、近年は減少傾向にあります。
- ◆認知症高齢者の数は年々増加し、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。
- ◆新型コロナウイルス感染症の流行により、市民生活や経済活動に大きな制約を受けています。
- ◆健康自生地*の登録数に小学校区ごとのばらつきがあります。

《課題》

- ◇市民が自分自身の健康状態を把握するとともに、ニーズに合わせた健康情報の提供や、健康づくりに取り組みやすい環境が必要になります。
- ◇高齢化が進展する中で、認知症の予防や早期発見に努める必要があります。
- ◇行動自粛等による生活習慣の変化に起因する健康リスクの増加が予想されます。
- ◇市内全域にわたって、歩いて出かけられる距離に健康自生地*を創出する必要があります。



出典：市民意識調査



こんなことに取り組みます

■誰もが健康に関心を持ち、継続的に健康づくりに取り組める環境を作ります。

- ・定期的な健診や検診により、自身の健康状態を確認することで、健康づくりへの興味・関心を促進します。
- ・心身の健康について気軽に相談できる環境づくりに取り組むとともに、疾病を早期発見し、適切な治療が受けられるよう地域医療の充実に努めます。

■認知症などの予防活動に取り組み、生涯現役のまちづくりを進めます。

- ・予防、普及啓発事業を充実させることにより、積極的に認知症、生活習慣病、フレイル^(注) 予防に取り組める体制をつくります。
- ・高齢者の閉じこもりを予防し、通うことのできる居場所づくりに取り組むとともに、地域における担い手を発掘し、新たな健康自生地*を創出します。

(注) 加齢に伴い、身体や心の働き、社会的なつながりが弱くなった状態を指し、放置すると「介護が必要な状態」になる可能性があります。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
定期健診（検診）を1年以内に受けている人の割合	71.7%	75%
体力や健康の保持増進を目的として身体を動かすことを習慣的に行っている人の割合	58.5%	65%
趣味や余暇活動を目的に、週1回以上 地域に出かけている人の割合	36.7%	40%

[関連する個別計画等]

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇健康たかはま21 ◇高浜市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導実施計画
- ◇高浜市国民健康保険データヘルス計画

一人ひとりにできること

- 1年に1回健康診断を受診しよう。
- 定期的におうちで体重・血圧をはかってセルフモニタリングしよう。
- 歩いてスタンプラリーをしよう。
- インスタ映えする場所を投稿して外出意欲を促そう。
- 地域の行事に参加しよう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 認知症予防コグニサイズ体操に取り組む。
- 料理教室を開催し、手や頭を働かせることにより認知症の予防も同時に行う。
- 健康な身体の維持を狙いに、高齢者を対象として、講師による介護予防体操と健康講話を実施する。
- 認知症に関する知識の普及により、予防と支援をめざし、認知症サポーター養成講座を市と協働で開催する。
- 認知症カフェを定期的に開催しよう。
- 認知症サポーターを増やそう、理解者を増やしていこう。

など



▲認知症サポーター養成講座



▲健康体操

目標（13）防災・防犯



防災・防犯の意識が高い
まちづくりを目指します

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民一人ひとりが、防災・防犯に対する意識を高め、安全・安心に暮らせるように取り組んでいます。
- ◇市民や地域等に「自助」「共助」の重要性が認識され、「公助」を含めた相互の連携を強化し、災害に強いまちづくりを進めています。
- ◇市民の生命と財産を守るため、地域と行政が連携し、犯罪や交通事故を防ぐ取り組みをし、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

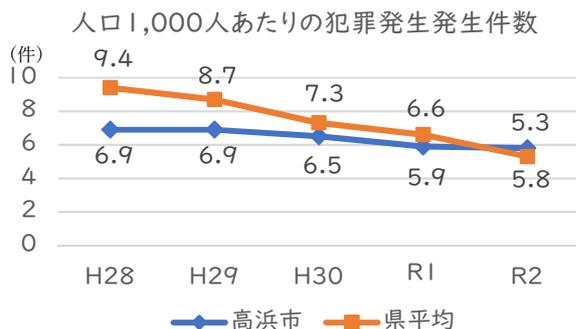
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

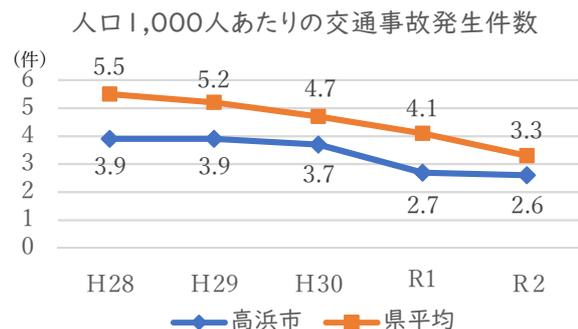
- ◆施策動向調査では、今後の重要施策として「地震や水害などの防災体制」が第1位となり、市民の防災意識が高まっています。
- ◆“青色防犯パトロール活動”や毎月行う“交通事故死ゼロの日”等の街頭活動を継続して実施し、市内の刑法犯認知件数及び交通事故発生件数は年々減少傾向にあります。

《課題》

- ◇南海トラフ地震等の大規模災害に対し、市民一人ひとりが備える「自助」の重要性が認識されるように周知する必要があります。
- ◇地域等に対して「共助」の重要性が認識されるような取り組みをし、地域防災力の向上に努める必要があります。
- ◇市民の防災意識の高まりから、市の防災対策への高い満足度が求められています。
- ◇市内在住の外国籍の方の割合は約8%と高く、外国籍の方に対して防災・減災の重要性が認識されるような取り組みをする必要があります。
- ◇防犯・交通安全対策については、引き続き地域や関係機関と連携して犯罪抑止や交通事故防止に取り組む必要があります。



出典：碧南警察署犯罪発生状況



出典：碧南警察署交通事故発生状況

■安全・安心に暮らせるまちづくりを実現します。

- ・市民一人ひとりの防災・防犯意識向上のため、防災・防犯に関する情報の周知徹底に取り組みます。
- ・市民が災害時に備えてマイ・タイムライン（避難行動計画）を作成するよう取り組みます。
- ・地域等に「共助」の重要性が認識されるような防災事業に取り組みます。
- ・大規模災害に備え「公助」における整備の改善・更新に取り組みます。

■災害に強いまちづくりを実現します。

- ・地域防災リーダー養成を推進し、自主防災組織の強化に取り組みます。
- ・消防団の人員確保と装備の充実を図り、地域防災力の向上に取り組みます。
- ・地域や消防団と連携し、地域における防災体制の強化に取り組みます。

■地域と行政が連携し、犯罪抑止、交通事故防止を図ります。

- ・「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、犯罪抑止活動に取り組みます。
- ・地域と行政が連携し、交通事故防止に向けた交通安全対策に取り組みます。
- ・防犯カメラ・防犯灯の設置や地域主体のパトロールの支援に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
市民が災害時に食糧等を備え、マイ・タイムライン（避難行動計画）を作成している世帯の割合	6.1%	50%
人口1,000人あたりの犯罪発生件数	4.8件	4件
人口1,000人あたりの交通事故発生件数	2.5件	2件

【関連する個別計画等】

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇高浜市国土強靱化地域計画 ◇高浜市地域防災計画 ◇高浜市国民保護計画

一人ひとりにできること

- 避難袋の準備・点検・入れ替えをしよう。
- マイ・タイムライン（避難行動計画）を作成しよう。
- 自宅の防犯対策（鍵・防犯フィルム・防犯カメラ・センサーライト等）をしよう。
- 備蓄品を管理しよう。（ローリングストック法など）
- 防犯カメラ設置推進地域のパネルを掲示しよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 青パト講習会に参加し、青パト車による防犯パトロールを実施します。
- 近い将来予想される大災害発生時に対応できるよう、各団体が一堂に集まり訓練を行う。
- 地域の防災力向上のため、合同の防災訓練を実施する。
- 犯罪情報や不安箇所などの情報を警察や市役所と連携して把握し、地域でその情報を共有する。
- 防犯の専門家を育成し、地域にひろめていこう。
- 登下校の見守りと交通安全を地域で行う仕組みをつくろう。

など



▲総合防災訓練



▲青パト出発式